地域医療支援病院 富山市民病院

れんけいと支援

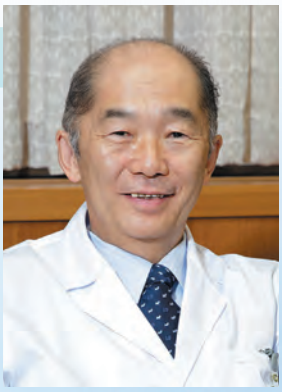
No.204
2021.4月号

地域の医療・保健・介護・福祉の方とともに、皆様の健康をお守りします

Face to Face,
Heart to Heart

富山市今泉北部町2-1／Tel: 076 (422) 1112㈹ http://www.tch.toyama.toyama.jp／発行日 2021年4月

病院長挨拶



コロナクラスターを乗り越えて、地域医療に貢献する

富山市民病院　院長　**藤村　隆**

昨年4月、私が院長就任した直後に当院で新型コロナウイルス感染症の院内クラスターが発生し、約2か月間に渡り外来、入院、手術、救急診療など病院機能の本幹を失うという非常に苦々しい経験をいたしました。職員は大変つらい思いをしましたが、全員が一丸となって再建に取り組んでくれました。その結果、現在はほぼ以前の体制を復元しております。私はそのような職員に深く感謝するとともに、大変誇りに思っています。この1年間いつも応援いただいている先生方にもご迷惑をかけたことをお詫びするとともに、いただいたご支援に応えるべく地域医療の発展に邁進したいと思います。

富山市病院事業では2020年度から2025年度にかけて中長期計画を立てています。その中で、「市民病院」は「高度急性期・急性期医療を担う地域の中核病院」また「まちなか病院」は「回復期を担う市内急性期病院の後方連携病院」と位置付けています。昨年8月にまちなか病院は地域包括ケア病床に移行し、当院での急性期医療が終了した患者さんが、シームレスにまちなか病院で回復期医療を受けることができる仕組みができました。この結果、急性期から回復期を経て、慢性期医療もしくは在宅への流れを合理化することができ、先生方からのご紹介や逆紹介などの連携もより活性化できるようになりました。

現在私どもが最も力を注いでいることは感染防止対策と医療安全です。感染防止対策は今回のコロナ禍の中、当院のみならず、ほとんどの医療機関や社会全体で意識が高まっていると思います。一方、医療安全は患者さん職員ともに重要な課題です。これまで以上に「名前確認」、「指差呼称」などを、周年的に研修や直接指導を通して習慣付けて、意識せずに行えるように取り組んでいます。

今後とも、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

5月分 研修・講演・学習会のご案内

1. 地域連携症例検討会

日 時：5月11日（火）19：00～20：15　場所：当院3階　講堂

1）症例検討（2例）

①『修正型電気けいれん療法（mＥＣＴ）が著効した悪性症候群を合併した統合失調症患者の一例』

精神科　陸田　典和

②『持続血糖モニタリングの下、活動的な生活をおくっている緩徐進行1型糖尿病の一例』

内分泌代謝内科　毛利　研祐

2）ミニレクチャー：「耳鳴の診断と治療の進歩　補聴器を使った耳鳴りの新しい治療」

耳鼻いんこう科・頭頸部外科　辻　亮

従来、耳鳴りは「原因不明で治らない病気」と考えられてきました。しかし研究の進歩により耳鳴りの原因が解明されてきて、新しい治療も開発されつつあります。

音は耳の中に入ると、最終的には電気信号となって脳にまで届き、ここで初めて音として認識されます。つまり音は耳で聞いているのではなく、脳で聞いているのです。一方、耳鳴り患者さんの9割に難聴があると言われており、この二つの関係は非常に深いものです。

脳は電気信号（音の刺激）が十分に届くことによって、安定した活動をしています。

難聴があると脳に届く電気信号が減ってしまうため、脳は不安定となり、活性化してしまいます。すると活性化した脳は勝手に電気信号を増幅し、その刺激が耳鳴りになっていると考えられています。耳鳴りのある人の聴力検査をすると、難聴が存在し、また多くの人が聞こえにくい音と近い音色の耳鳴りがしています。

最新の治療法として補聴器を使った耳鳴りの治療が注目を浴びています。耳鳴りの原因は難聴であるため、補聴器を使って難聴の部分の音を補うことで脳に届く音の刺激（電気信号）を増やすことになり、脳の活性が落ち着き、安定した活動に近づくことができます。この治療により9割以上の人が改善したとの報告もあり、現在耳鳴りを治す最も効果的な治療と考えられています。

予告

※例年6月に開催しております地域連携の会は、今年度も行いません。当院での通常の開催となります。

日時：6月8日（火）19：00～20：15　場所：当院3階　講堂

内容：ミニレクチャー　2題

※定例の研修会、看護研修

当面の間、開催を見合わせております。

衛星研修Ｓ－ＱＵＥ研修は、今年度より開催中止となりました。

入院支援センター (Patient frow management : admitting branch) の紹介

ふれあい地域医療センター（Patient frow management）では、入院が決まった患者さんに対して事前にオリエンテーションを行い、入院・手術に向けて心身の準備ができるように支援をしてきましたが、令和3年4月5日より支援内容を拡大し「入院支援センター」としてオープンいたしました。

明るく改装されたスペースで、看護師が丁寧にお話しを聞き取り、身体面・生活面のアセスメントを行い、退院に向けて準備や調整が必要な場合は病棟看護師や退院調整の相談員と情報を共有し、入院前から退院後の生活を見据えた支援を行っています。

看護師・薬剤師・栄養士が、安心して安全に治療をうけ快適な入院生活を送ることができるように、そしてできるだけ早く生活の場に戻っていただけるよう支援をいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

精神デイケア科から

コロナ禍で

精神保健福祉士　中村　里佳

精神デイケア科は、心の病気を持つ方がより良い社会生活を目指してリハビリを行う場所です。患者様は9時から15時30分まで集団プログラムに参加し過ごします。約6時間滞在することと昼食時間を挟むことが院内では特殊な事情となります。新型コロナウイルス感染予防とプログラム運営を両立するためには工夫が必要です。やむを得ず料理、カラオケ等のレクリエーション、外部講師による書道や音楽療法、行事等感染リスクが高まると考えられるプログラムは休止しています。体調確認、マスク着用、環境整備、手指消毒、アクリル板の設置、ソーシャルディスタンスの確保、出来る限りの対策をしています。比較的広い活動場所があり密を回避できるのが強みです。マスクをはずす昼食時はアクリル板に加え各自ダンボールの囲いを用意し会話をせず食事をしています。ダンボールはメーカー様からの寄贈です。

昨年4月、院内クラスターの発生により当院の外来診療が一時休止となりましたが、デイケア再開はその特殊性から慎重さを要しました。7月1日に半日デイケアを再開するまでの期間はデイケア患者様宅への訪問看護を行いました。外出できず生活リズムが乱れたり、家族と過ごす時間が長くなりお互いにストレスが生じたり…患者様の多くが訪問を希望され不安軽減の一助となれたのではないかと思います。地域での生活を知る良い機会でもありました。この1年は患者様の協力もあり乗りきることができました。こんな時だからこそ生活を支え続けられるよう柔軟に対応していきたいと思っています。新規利用の相談も受けていますのでお問い合わせいただければ幸いです。

医師不在のお知らせ　5月

※外来担当日の休診のみ掲載

科名	医師名	不在日	科名	医師名	不在日
整形外科・関節再建外科	重　本	21日	小児科	和　田	18日（午前）
呼吸器・血管外科	瀬　川	20日	眼科	山田芳	31日

※その他、急に不在となることがありますので、ふれあい地域医療センターまでお問い合わせください。TEL 076-422-1112（代）内線2168

編集後記

ふれあい地域医療センターで退院調整の仕事をするようになり、この春で3年目を迎えました。慣れない業務についていくことで精いっぱいだった1年目、コロナの影響で何事にも試行錯誤だった2年目でしたが、未だに新たな学びがあり、自分の未熟さと「生活を支える」ということの難しさを感じる毎日です。

今年度は今まで以上に人と人のつながりを大切にしながら丁寧さと迅速さを意識した支援を心掛けたいと思います。

みなさま、今年度も富山市民病院、そして「れんけいと支援」をよろしくお願いいたします。

ふれあい地域医療センター　島田　佳奈

作：病院ボランティア 篠崎 佳子

「れんけいと支援」に関するお問い合わせは、ふれあい地域医療センターまでご連絡ください。
送付を希望されない方はお申し出ください。

TEL 076（422）1114／FAX 076（422）1154
メールアドレス fureairenkei@tch.toyama.toyama.jp

ホームページ http://www.tch.toyama.toyama.jp/　がん何でも相談室：メールアドレス shien@tch.toyama.toyama.jp